



第1141号

令和8年9月15日発行

目次	
日連教長野大会の報告.....1～3	産育休中教職員セミナー ご案内.....8
講習・講座参加者の声.....4～6	教育研究所だより.....9
関係機関・団体との懇談会報告.....7	移動展のご案内.....10
10月の研修ガイド.....7	100年館の絵.....10
哲学の道 ご案内.....8	

悠久の山河の如く 新たな時代を力強く切り拓く

第77回 日本連合教育会研究大会 長野大会 兼 第140回 信濃教育会総集会



令和8年8月20日（木）～21日（金）、「悠久の山河の如く 新たな時代を力強く切り拓く 日本人の育成」を大会主題として、第77回日本連合教育会研究大会長野大会 兼 第140回信濃教育会総集会が開催されました。

1日目は、ホテル国際21にて理事会、レセプション、青年教師の会が行われ、充実した協議、情報交換をすることができました。2日目は、ホクト文化ホール等に県内外から約1,200名が参加し、開会式、全体会、記念講演、アトラクション、分科会等で学びを深めることができました。

こうして実り多き研究大会を開催できましたのも、開催地である長野上水内教育会をはじめ、運営を支えてくださった皆様のおかげです。改めて、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

【参加者の感想】

- 長野県ならではの温かい空気に包まれながら、司会を務めてくださったお二人の先生が終始楽しく進行してくださり、会場全体が和やかな雰囲気になりました。おかげで、参加者としても心地よく鎌田先生の講演を味わうことができ、感謝しています。また、オーケストラ、合唱団の皆様にも心より御礼申し上げます。皆様の演奏と歌声が会場に豊かな響きをもたらし、特に「信濃の国」を久しぶりに合唱できたことは、大きな喜びであり、胸が熱くなるひとときでした。長野県に暮らすものとして、改めて郷土への思いを深める時間となりました。
- 猛暑の中、路上で案内板をもって誘導してくださった役員の皆様にも心より感謝申し上げます。若里多目的広場からホクト文化ホールまで距離がありましたが、丁寧なご案内のおかげでスムーズに移動できました。また、館内での混雑緩和の工夫やお弁当の長野県ならではの食材など、細やかなお心遣いを楽しませていただきました。全体を通して、おもてなしの心に満ちた素晴らしい大会運営だったと感じております。

8月20日(木)

日連教理事会 青年教師の会



日連教理事会

1日目、ホテル国際21で開催された青年教師の会では、子どもの主体性を育み、教師が主体的に学ぶためにできることを熱く議論し合う姿がありました。



青年教師の会 グループ協議

8月21日(金)

開会式 <主催者挨拶 来賓祝辞>

2日目、ホクト文化ホールで開会式が行われました。国歌斉唱に続き、主催者挨拶があり、その後、ご来賓を代表して、文科省審議官、長野県知事、長野市長からご祝辞をいただきました。



日本連合教育会
佐藤利弘 会長



文科省審議官
黄地吉隆 様



長野県知事
阿部守一 様



長野市長
荻原健司 様

○教育を改革、前進させていく気概の感じられる開会式でした。来賓の方々の祝辞が形式的なものではなく、教育、学びに対する強い思いを伝えてくださるもので、心強く思いました。

全体会 <大会主題の趣旨説明 大会宣言文の採択 青年教師の会からのメッセージ>



全体会では、全国の先生方の共通の課題や思いが共有されました。



議長
桂本 和弘



趣旨説明
寺島 努



大会宣言提案
清水 直人



青年教師の会
押澤 利満

記念講演 「困難な時代をどう生きるか」 講師：鎌田 實 様



鎌田先生の熱い思いが伝わり、感動連続の講演でした。



○鎌田先生のユーモアあふれるお話は、時間を忘れて引き込まれるほど魅力的で、もっともっとお聞きしたいと思うほどのご講演でした。ご自身の生い立ちに始まり、教師やご家族とのかわり、教育への思い、健康のとらえ方、さらにミッドライフクライシスに至るまで、幅広いテーマを縦横に語ってくださり、どの内容も示唆に富み、深い学びにつながるものでした。

交流タイム

MC 佐藤 友紀 教諭（緑ヶ丘小）
村松 崇志 教諭（篠ノ井西小）



○MCのお二人が会場を盛り上げてくださり、ありがとうございました。他県の方は、隣の方と話をするきっかけになってよかったと思いました。

若槻小学校伝統の若槻ストレッチで体をほぐし、お隣の方との共通点探して交流を深めました。

「長野の食べ物と言えど？」の質問では、おやきと五平餅に意見が分かれました。



信濃教育会オーケストラ・合唱団による演奏



信濃教育会オーケストラによる「フィンランディア」「威風堂々」の演奏の後、110名の合唱団との「信濃讃歌」では、参加者が共に大合唱しました。



常任指揮者 木村 美音子 先生

○長野県の教職員の方々により結成され、活動されているオーケストラとお伺いし、大変感銘を受けました。長野県の芸術文化の高さや層の厚さを深く実感いたしました。

分科会

第2分科会「学習指導」



「教育課程」「学習指導」「道徳教育」「人権教育」「特別支援教育」「健康・安全教育」「生徒指導」「幼児教育」「地域と共に創る防災教育」「教育会のあり方」の10分科会に分かれて、県内外の実践に学ぶ貴重な機会となりました。

第10分科会「教育会のあり方」



○発表は興味深く、大変参考になりました。さらに同じ分科会にいた先生方の考え方や視点が素晴らしく、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

大会運営を支えたスタッフ



早朝から行われた係会の様子

前日準備、そして、当日も早朝から運営係の会員が献身的に準備を進めてくださいました。スタッフの活躍により充実した大会となりました。

○今回の大会は、多くの先生方、とりわけ長野上水内の先生方のご協力のご支援なくしては成り立たないものでした。準備から当日の運営に至るまで、細やかなお心配りをいただき、深く感謝しております。

共に学び、高め合う「教育実践Webラボ」

教育研究論文・教育実践賞 受賞者によるオンライン発表会

7月2日(木)、3日(金)、6日(月) オンライン発表会

参加者のべ36名

3日間にわたって、令和7年度の信濃教育会教育研究論文・教育実践賞受賞者によるオンライン発表会「教育実践 Web ラボ」が開催されました。県下小中学校の珠玉の実践16事例の発表がありました。

○各校の先進的な取組や実践に触れ、多くを学ばせていただくとともに、明日からの教育活動に向けて大きな刺激をいただきました。学校や地域を越えて実践を共有し、互いに学び合うことは、長野県の教育をさらに充実させていく上で、とても大切なことだと感じています。この取り組みを今後もぜひ、継続・発展させていただければと思います。



臨地講習「信濃の魅力再発見」

日本のチロル「下栗の里」の魅力を発見できた講座

7月31日(金) 下栗の里

受講者数 18名

地元のガイドの説明を通して、下栗の里の歴史・文化・暮らしに触れ、にほんの里100選、日本のチロル「下栗の里」の絶景を堪能しました。

○この素敵なロケーションを堪能できたこと何よりでした。また、ガイドをしていただいた野牧さんのお話から、下栗の里の文化にも思いを寄せることができました。個人的には、なかなか訪れることができないだけに、このような研修の機会を与えてくださったことに感謝です。

○下伊那出身でありながら、下栗の里をおとずれたのは初めてでした。日本の原風景を工夫、努力されて守ってきている方に直接お話をお聞きすることができたことは大変貴重な機会でした。下栗の里の景観は懐かしさと穏やかさを感じ、心が癒やされました。神を敬い、祈りを捧げる伝統行事が続けられていることから、地域の方たちの自然に生かされているという畏敬の念の大きさに学ばせていただきました。



基礎講座「特別支援教育」～一人よりみんなで～

語り合い よりよい支援と支援者のメンタルヘルス！

8月1日(土) 信濃教育会館 講堂

受講者数 75名、講師 2名、助言者 10名

本田秀夫先生のご講演では、発達障がいのある子どもへのよりよい支援を願うとき、子どもの「思い」「困り感」などを正しく理解し、子どもの身になって内側から考え、感じることができること、支援者が健康であることの大切さを、わかりやすくお話しいただきました。また、後半のグループ懇談は、日々感じている悩みも含め、思いを存分に語り合える時間になりました。受講した皆さんが笑顔で話される様子が印象的でした。

○欠点や「できないこと」に目を向けるのではなく、「今できていることは何か」を探る視点、「子どもは小さな大人ではない」という子どもを尊重する視点、定型発達を基準にした「せめてこれくらいは」という勝手な期待の押し付けを避けることなど、今までの私の子どもの見方を問い直すことができました。

○一人一人の特性を大事にするといいながら、学校というところは特性が際立つ子どもの特性を際立たないように直そうとする雰囲気はどうしてもあるように日々感じています。定型発達に合わせていくような指導をしてトラウマにさせてしまったら、学校に行く意味はありません。今の目の前の子どもをちゃんと見て、そして私たちは正しい知識を学習して接していかなくてはいけないと思いました。



基礎講座「一から学ぶ書写」

授業ですぐに活かせる書写指導 じっくりと基礎から応用まで・・・

8月5日(水) 交流学习センター「ゆめあるて」(豊丘村)

受講者数 20名

日々の授業で役立てられる書写指導について学びました。講師の市澤静山先生、坂田和弥先生、小池勲先生には、毛筆書写から硬筆書写まで、幅広いニーズに対応した指導をしていただきました。受講者の皆さんは、一点一点をおろそかにしない丁寧な筆運びで練習していました。穏やかな表情で取り組む姿が印象的でした。

○初めての参加、ついて行けるか心配でしたが、市澤先生、坂田先生、小池先生方から丁寧に指導いただき、少し上達できた気持ちになりました。自分の時間としてひたすらに没頭することができました。

○自分の書いた字を添削してもらえ、とても集中して字に向き合うことができました。一日があっという間でした。基本に立ち返って教えていただき、二学期からの指導のヒントを得ることができました。

○下伊那在住のため、長野市での開催の年は遠くてなかなか参加できずにいました。今回は下伊那での開催ということで大変うれしかったです。忙しさにかまけて、自分から練習する機会を作れないでいたので、しっかりと研修させていただき技能を高められた気がします。



基礎講座「美術」

白いワンピースからキャンバスに広がる、美しい世界

8月5日(水)、6日(木)、7日(金) 信濃教育会館講堂

受講者数 18名

講師に上田秀洋先生を迎えて4年目。今年度からモデルさんが着衣となり、参加しやすい講座となりました。人体を構成する骨格や肌の質感の表現はもちろん、白いワンピースからイメージを膨らませて画面を作っていく行為は、まさに創造活動でした。鉛筆デッサンや水彩、油彩、と表現方法も多岐にわたり、お互いに刺激を受けながらの素敵な3日間でした。

○上田先生にご指導いただける貴重な機会で、毎年楽しみにしています。今回は着衣だったこともあり、衣装やセティング、ポーズなど、絵を描き始める前から絵作りがはじまっていることを知ることができました。他の参加者の方の制作の様子を見ることもでき、大変刺激になりました。



○普段は学校の業務に追われて、絵に向き合うことなど「夢のまた夢」といった毎日ですが、この夏休み中の3日間だけは、いろいろなことを忘れて目の前のキャンバスだけに向かうことができます。この講座に参加されている方は、若い方から大先輩の先生方まで年代もバラバラ、画風もそれぞれ。本当にバラエティに富んでいて、とても勉強になります。休憩時に、講師の先生や事務局の先生、参加者の先生方とお話ができるのもとても楽しいです。



基礎講座「ALTとブラ散歩 in 下諏訪」

少人数、同じ目的、同じ釜の飯を食べる！=仲間になる

8月6日(木) 諏訪大社下社春宮・秋宮、下諏訪今昔館、下諏訪宿本陣岩波家など 受講者数 11名

ALT1人と2、3名のグループでブラ散歩。地図を見ながらどこを目指す？何食べたい？なんて相談しながら、チェックポイントを周り、クイズに答えてステッカーをゲット！閉講式では、撮影した写真をシェアしながらの散歩自慢 in English！参加者の皆さんから、夏休みの思い出の1つに認定していただきました。

○今年こそ参加したいと申込みの日を待ちわびていました。英語に全く関係のない職種ですが、英会話に浸れる1日を楽しみにして来ました。グループの皆さんに単語を教えてもらいながら本当に楽しい一日でした。



○身近な地域について知れたことに加え、英語ではこう言うのか…という発見もありとても有意義でした。先生方とのつながりもできて嬉しかったです。

○初めて参加しましたが、カラーハントやクイズなどグループで楽しめる企画や、ALTの先生が積極的に話しかけてくれたことが嬉しかったです。夏休みのよい思い出になりました。

○Thank you very much♡ I appreciated it. 育休中の私にとっても、子どもにとっても2026、夏の思い出の大冒険になりました。



関係機関・団体との懇談会

長野県PTA連合会との懇談会 6月5日

互いの事業を紹介し合い、可能な連携を模索しました。「信州教育の日」佐久大会での連携を確認し合うと共に、子ども、大人ともに当事者意識を高め、社会参画や学校教育にかかわっていただける長野県にしていけることが大事だと意見交換が行われました。



長野県小学校長会・長野県中学校長会との懇談会 7月7日

「教職員の研修意欲を高め、主体的に学び続けるようにするにはどうすればよいか」をテーマに、校長会との連携による若手教員の人材育成を重点として懇談を行いました。「若いうちに教育会や同好会などで主体的に研修を積んでいく環境づくりが大切」などの意見が出されました。

信濃教育会賛助会員会との懇談会 7月21日

県下教育の現状と信濃教育会の目指す方向と課題などについて、意見交換が行われました。賛助会員会から信濃教育会を支援する温かいご発言をいただきました。信濃教育会からはホームページの「会員のページ」やSNSでの情報発信の様子をお伝えし、活用方法を説明しました。

長野県教育委員会との懇談会 8月18日

「信濃教育会と県教委がタッグを組み、これからの信州教育をつくるためにどのような連携ができるか」をテーマに懇談が行われました。それぞれから重点事業の話題提供の後、4グループに分かれ、熱心な意見交換が行われました。



10月の研修ガイド

27日（火）●文学講演会 ◎上伊那教育会館 ◇「井月の俳句～子どもの姿を中心に～」堀井正子
（近代文学研究家）☆上伊那教育会 0265-72-3416

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等（講師名敬称略） ☆連絡先

10/31
(SAT)
9:10~12:00

生涯学習講座

哲学の道

西田の作品には、「日本的」もしくは「日本」ということへの言及が、時期を問わず、随所に見られます。多くは断片的なもののですが、まとまった論考も幾つかあります。

西田によるこれら「日本的」の主張では、「世界」や「公」ということが常に意識されていました。「世界の中の日本」という観点から、西田は「日本的」の意義を考察します。

西田による「日本的」の主張の内容とその背景について、皆さまと一緒に考えていきたいと思います。



参加者募集中！

◀お申込みはこちらから（10月23日〆切）▶



関西大学

水野 友晴 教授



子育てを頑張る ママ先生&パパ先生へ

8年度『産育休中教職員セミナー』のご案内

産育休中教職員セミナー

子育ての悩みや復帰の不安やストレスを解消しよう！

令和8年10月2日(金) AM10:00 ~ 11:00(1時間)

参加方法:オンライン(Zoom) 参加費:無料

内容 ◆制度解説:前安曇支援学校校長 松嶋則行先生 ◆先輩方の経験談 等

<昨年度の参加者の感想>

- 「ご機嫌に暮らす」「からだは覚えている(復帰後も大丈夫)」「明るく戻ってきてもらえればOK」という先輩方の声に励まされたり、ブレイクアウトルームでの話題に共感したり…久しぶりに社会とつながることができた気がしてうれしかったです。
- 今年変わった制度なども聞いて、大変勉強になりました。どうにかこの職を続けていけたらいいと思います。
- みんな同じ気持ちで不安があるのだとわかりました。家族の笑顔を大事に社会復帰がんばります！



お申し込みはこちらから ➡



多くの皆様のご参加をお待ちしています！



令和8年度 教育研究所 研究発表会を終えて

- 対面開催① 6月13日(土) 飯田市立座光寺小学校
○対面開催② 7月11日(土) 信濃教育会館
○オンライン開催 ①6月18日(木) ②6月25日(木) ③6月30日(火)

今年度は、南信地区の飯田市立座光寺小学校での開催、また、昨年に引き続き先生方が参加しやすい平日夕方1時間のオンライン開催を3回行いました。職員研修として学校単位で参加いただいた学校もあり、若い方からベテランまで、発表をきっかけに熱心な協議が行われました。

参加者の声(分科会アンケートより)

- 効率が求められ、一人ひとりと向き合う考えが薄れる現代だからこそ、「事実」に基づき子どもの聞こえない声や内面に向き合い続ける研究姿勢が、教師の原点や大切なものを思い出させてくれた。
- 「関心を向ければ向けるほど知りたくなる」という言葉が印象的だった。子どもの言動からその子のいきさつや胸の内に思いを馳せ、心に寄り添う授業づくりを明日から実践したい。



「令和9年度 教育研究所 研究員の募集」が始まります！

○応募資格

- ①5年以上の公立学校教諭経験を有し、現在引き続きその職にあること。
- ②研修後、本県教職員として教育振興のために貢献しようとする意志が強固なこと。
- ③信濃教育会会員であり、所属学校長の推薦を得ていること。

○応募メ切 10月13日(火) (市町村教育委員会経由で県教育委員会事務局へ提出)

○入所にあたって

- ・遠隔地からの入所、通勤については、個々の状況に応じて柔軟に対応します。
- ・福井大学連合教職大学院の教職修士の取得も可能です。
- ・応募者は、自身の実践記録(日頃の授業のビデオ録画等)を撮りためておいてください。

※詳細は、各校に配布した「令和9年度 信濃教育会教育研究所 研究員募集案内」をご覧ください。



◇高柳充利公開セミナー

11月5日(木) 16:00~17:00

講師 高柳充利 先生

「見つめ直そう 道徳教育」(仮)



◇奈須正裕公開セミナー

12月12日(土) 10:00~12:00

講師 奈須正裕 先生

「これからの教育に求められるもの」(仮)



会員のお申し込みはこちら



入場無料・期間中無休

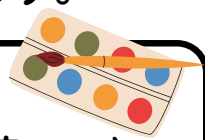
令和7年度「今を生きる子どもの絵展」を 安曇野市の生涯学習センターにて開催します。

日時 ▶ 10月2日(金)～8日(木) / 10:00～16:00

会場 ▶ 信濃教育会生涯学習センター(安曇野市豊科高家796-3)

電話 ▶ 026-235-1608(平日) / 0263-72-9991(土・日)

☑ 展示後は11月1日から6回にわけて信濃教育会ホームページに作品を掲載します。



信濃教育 予告



我が同好会の取組 No. 3

「本気のデッサンをしよう」と、児童は自分のお気に入りの靴を机の上に置き、どの角度から描くのがよいかをじっくり考えるところから制作を始めました。なんとなく描いたり、想像で補ったりするのではなく、実物を何度も見比べ、細部まで確かめながら、形やひもの重なり、使い込んだ靴ならではの汚れや傷まで丁寧に再現しようと、時間をかけてデッサンに向き合います。

ました。着彩では、安易に白色の絵の具に頼らず、水の量を調整して色の濃淡や光の変化を表現しました。普段から色の変化を捉える取組を重ねてきたことが、この繊細な表現につながっています。作品の最後に添えられた「たくさん歩いたね これからもよろしくね」という詩からは、靴への愛情と、これからも大切に使い続けたいという思いがまっすぐに伝わってきます。

指導者
青柳 智之(波田小学校)

100年館の絵

令和7年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「夢にでてきた白いくつ」

小林 凜(波田小5年)

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470
URL <https://shinkyo.or.jp> ✉ shinkyo@shinkyo.or.jp
編集兼発行人 / 大日方貞一

